

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0472300052		
法人名	社会福祉法人あぶくま会		
事業所名	仙南ジェロントピア高齢者グループホームリリーハイム(旧やまゆりの里)		
所在地	宮城県伊具郡丸森町館矢間山田字市子沢1		
自己評価作成日	平成 21 年 9 月 25 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://yell.hello-net.info/kouhyou/">http://yell.hello-net.info/kouhyou/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成 21 年 10 月 26 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然環境の中、入居者が自分のペースで穏やかに生活できる様に支援しています。家庭的な雰囲気「自由に、のんびり、一緒に、楽しく」過ごしていただけるよう職員間で話し合い、創意工夫し入居者の安心できる場所作りにつとめています。また、各入居者が出来る範囲で食事の準備や後片付け、掃除、洗濯など身の回りの事をさせていただくと共に畑作りなどでは職員が教えていただき畑の手入れ、収穫を通し「入居者と職員」が一緒に行った喜びを感じて貰えるようにつとめています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

駅から程近くの緑に囲まれた郊外の高台に福祉ゾーンがあり、その一画にグループホームがある。ホーム内は個人のスペースと共有のスペースが程よく配置された造りになっている。職員の大部分が丸森町出身であり入居者とは共通の話題を通じ意向や思いの把握に役立っている。地域密着型サービスとして地域との交流ができていく環境にあるが、ホーム自体が地域から孤立することがないよう、自ら積極的に地域に出掛けていき交流に取り組んでいくことが大切である。本年、町から事業が完全に移管されたのを機に民間企業として活力ある運営を期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 仙南ジェロントピア高齢者グループホームリリーハイム)「ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を日々の方針や目標に具体化した内容で職員に伝え職員間で実践に繋がる様話し合っている	昨年抜本的に見直し、現行の入居者本位・地域との連携・職員の意識をうたった理念が出来上がった。日々申し送りの時や会議のときに話し合い、実践につなげるよう努めている。なお、本年も見直しを行う予定である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設立地場所が周辺との接点がなく思う様に地域との交流が計れない	付近に住宅が無いため地域との交流がなかなか計れない。そのなかで地域の敬老会への参加、知人宅訪問など徐々に増えつつある。交流の場であった法人主催の夏祭が中止されたことは残念です。復活を望みたい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の隔月開催		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各参加者の率直な意見を取り入れ事業所の取り組み内容や改善点を話し合っている	2ヶ月に一度開催され、議事録もよく整理されている。しかし、ホームからの報告が主になり活発な意見交換の場とは言いがたい。委員の数・職種を特に制限していないので、委員の見直しを行い活性化して頂きたい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政担当者が訪問してもらえる様に働きかけている	事業者が公設民営から民営に移管されて若干疎遠になったように見受けられる。丸森町唯一の地域密着型サービス施設であるので、地域資源として行政の積極的な支援を期待したい。	ホーム側から地域包括支援センターや町の担当課に出向き、話し合いの場を持って頂きたい。町の担当者も法人内の老人福祉施設を訪問の際にホームにも立ち寄りたいたいとしている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束による身体的、精神的弊害について理解し拘束のないケアを目指している 玄関の鍵かけはしていないが一部建物危険箇所あり、事故防止の為施錠している	日中の玄関施錠は行っていない。入居者の外出傾向をつかんで対応している。また、法人内の他施設にも見守りの協力を依頼している。また、毎年議題として取り上げ研修している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	顔色や様子、兆候を見逃さないよう日々注意し変化やサインを記録に残している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者、待機者に後見人制度使用しており暫定的に理解しているものの、こちらから積極的に活用するとりくみはしていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時十分に説明し理解してもらいトラブルの無いよう納得いただいている 今までの暮らしやケアの継続が保たれるよう情報交換を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の中で意識的に本人が求めている事を引き出す努力をし対応を検討し不満を持たれないように業務に反映させている	家族や入居者には、意見箱を設けたり、面会時に意見を聞くなどしている。運営推進会議や行政の窓口、外部の相談機関など、ホーム以外の外部の人に意見・苦情をよせる場があることを説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務中にも意見を聞きその都度対応出来る事はすぐ実践に繋げている 又、会議等で日々見落とししている様な事に関して話し合いの機会を設けている	個人面接を年に管理者2回、施設長1回行い、日々の業務の中で話づらいことも、話せるような機会を設けている。職員の質の向上に向けた研修や同業者との交流の支援をして頂きたい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考価制度へ反映 又、年二回の個人面接等で各自の意見を良く聞く事につとめている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修参加 人員のゆとりがなくなかなか研修への参加が難しいが今年度は序々に参加の機会を作っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員配置にゆとりが無くなかなか外部同事業所と交流する機会がない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階ではあまり本人の意見は出てきておらず家族を介しての意思の反映が主である 入所前に本人に施設見学に来ていただいている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	聞き取りの時点で十分話しを聞き、施設側で対応出来る事を説明させていただいている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケースによってはケアマネージャー等と相談し話しを進め必要に応じたサービスを説明している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的に各入居者の出来る事をしていただき、していただいた事には感謝の言葉を忘れないようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や面会時等各入居者の状態を伝え出来るだけ家族との繋がりを保てる様に支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族。知人の面会は積極的に受け入れている 入居者が会いに行きたいと申し出あった場合なかなか職員の人員的にゆとりなく家族と相談し対応して貰っている	知人等の面会は積極的に受け入れている。ただ、入居者の外出については、法人内の業務拡大にともない、車の利用枠が大幅に削減されたため家族の車でお願いせざるを得ない状態である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団生活に馴染めない方が多く、無理に入居者同士が関わり合う様な事はせずその時々に合わせて職員がクッションになるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	要望に応じ退所後の相談にあつたている 又、併設の特養に入所される方も多いので特養職員の相談にも応じている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	バックグラウンドアセスメントを活用している	本人の意向や思いの把握は、入居者との会話を通してやアセスメントを活用して取組んでいる。意思の疎通が難しい場合は、家族の協力も得ながら取組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドアセスメントを活用している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	細かく行動を記録に記入し全職員が把握出来る様にしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個人を尊重し作成しているがより客観的で具体的な介護計画作りを目指している	モニタリングを2、3ヶ月に一度行い、その結果を担当者・計画作成責任者・管理者が話し合いを行い介護計画に反映させている。状態に変化の無い場合も年2回介護計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を具体的に記述し全職員が情報を共有出来る様にしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	前例のない事であってもニーズに可能な限り対応できるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じ協力してもらえるように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に応じたかかりつけ医の受診を支援し、その時々々の症状等に合った受診の説明を家族に行っている	かかりつけ医の受診を尊重し支援している。ただ、通院は家族対応をお願いしている。生活状況等は書類を作成して持参してもらっている。法人内の看護師に依頼し週1回各人の健康状態をチェックしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特養看護師に状態を伝え指示、アドバイスを受け適切な受診を受ける様に支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院側で施設への情報提供がまちまちで家族を仲介しているのがほとんどである		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意見を聞きそれに対応出来るように努力している。重度化した場合特養入所希望される方が多く特養施設への入所への働きかけ等行っている	基本的に看取りは行わず、併設の特別養護老人ホームで対応してきたが、昨今は優先入所が困難になっている。一方、ホームでの看取り希望は増えており、指針を作成し職員で出来るところまでケアにあたり、対応している。	町に訪問診療医がいないという状況であるが、併設の特別養護老人ホームに頼ることなく、指針に基づきホームとして「できること」「できないこと」を入居者・家族に説明して同意を得て頂きたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	学習や訓練は行っているが不定期である日頃不安に思う事や入居者の体調変化、服薬の変更の度看護師に報告し指導を受けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	単独での防災訓練は行っていない。地域との協力体制においてはグループホーム個人ではなく施設全体として協力体制を築いている	年2回施設全体の防災訓練に参加しているが、グループホームで避難訓練を実施したことは無く、職員も不安を感じている。備蓄については、特別養護老人ホームで一括管理している。	最低年2回うち1回は夜間想定避難訓練をホーム独自で行い、課題について話し合いをして頂きたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その入居者に合わせた言葉使いで声掛けしている	入居者の呼び方は、本人との話の中から、あるいは家族からの情報を基に好ましいと思われる呼び方をしている。話しかけのトーンも穏やかである。個人情報についても他人の目に触れないよう注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	積極的に意見を発す方に関しては率直にその希望を聞き、自己決定が出来ない方に対しては意識し待つ姿勢を大切にしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間等一日の流れや一定の時間の目安はあるが、個々のペースを尊重している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日、本人の着たい服を決めて貰ったり、買物に行った際選んで貰い購入している 散髪の際なども本人の希望に合わせて対応している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各入居者の好みを把握し嫌いな物などには代替えを出し対応している 行事食等で季節を味わってもらっている	昼食・夕食は2名の調理専門職員が行っているが、後片付けは入居者も行っている。職員も同じものを同じテーブルで食べていたが、食事での会話が少なくなると見受けられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各入居者の動き、病気等に合わせた支援を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後自分で自発的に出来ない方に関しては声掛けし口腔ケアにつとめている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	下着、パット等検討し各々に合わせた支援を行っている	ケース記録を活用したトイレ誘導を行っており、入居時から使用していた紙パンツを卒業するなど成果がある。また、便秘には食事時のヨーグルト・水分の摂取など配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各々の排便状況を確認しその人に合った下剤の投与等につとめている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できるだけ本人の希望に合わせたいがなかなか実現出来ていない	日中の午前・午後の希望する時間に入浴出来る。ただし、入浴できる回数が週2回と限られており、入居者の習慣・意向を反映した支援が望まれる。	一人ひとりの意向などを汲み取り、入浴の機会を増やすよう努力して頂きたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の行動を把握しその人に合った休憩時間を設定し休んでいただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各職員が把握し飲み忘れが無いように目配り、確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの楽しみ、役割、出番を見出し場面を作る努力をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員数が足りずその日の希望に応じ切れない時もある 普段行けない場所等は家族と相談し協力してもらっている	法人の業務拡大により、地域交流の足であった車の利用枠が大幅に削減され、地域への外出が極端に困難になっている。もっぱら職員及び家族の車に対応しているが、事故も心配で遠出の計画も自粛しがちになっている。	グループホームには、入居者と地域との交流が継続するよう支援することが求められている。車の利用枠を拡大し、より良い支援をして頂きたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望のある入居者には本人持ちで現金管理してもらい、管理の難しい方に関しては職員管理している 外出時に本人持ちの現金で欲しい物購入してもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙は本人の希望に応じ自由に来るように支援している 又、逆に家族からの物も特に制限はしていない		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせたレイアウト等工夫している 又、場所の認知しにくい所等は戸を外し暖簾にするなど対応している	職員の入居者への声掛けのトーンは普通である。居間の換気や温度は適正に管理されている。飾り付けや置物にも季節を感じ取れるように工夫している。ただ、居間兼食堂が間接照明で若干明るさに不足が感じられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で何かしたい場合は基本的には居室使用してもらっているが各々で落ち着く場所を職員が把握しておりそれに合わせて誘導し過ごしてもらっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の段階で家族に説明し各々の居室作りにつとめている 又、入居してから持ち込んだ物などで混乱のみられる物に関しては家族と相談し持ち帰ってもらったりしている	家族へは使い慣れた物に囲まれて過ごすことの意義を説明し、できるだけ本人にとって馴染みの品や写真などを持ってきてもらうようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じ備え付けの戸や手すりをはずし「分かりやすい環境作り」に取り組んでいる		